

# 遺愛女子高等学校が日本港湾協会企画賞を受賞しました

北海道開発局 港湾空港部

函館市内の私立高校「遺愛女子高等学校」による「クルーズ船へのメッセージ」が日本港湾協会企画賞を受賞しました。

日本港湾協会企画賞は、「港湾に関する映像、著作、イベント等において、その企画表現が特に優れているものうち、港湾等に関する理解の増進や港湾振興及び利用促進等への貢献等が顕著であった個人又は団体」を顕彰するものです。

遺愛女子高等学校の英語科生徒は、クルーズ船寄港時に通訳ボランティアとして英語による観光案内対応を行っていたほか、書道や茶道などの日本文化体験メニューの提供や「いか踊り」の披露など、質の高いおもてなし活動に取り組んできました。また、クルーズに乗船して1週間に渡り語学研修を行うなどクルーズ船は身近な存在となっていました。

「クルーズ船へのメッセージ」は、2020年2月にダイ

ヤモンド・プリンセスで新型コロナウイルス感染症が発生した際、生徒がすぐに新型コロナウイルスの収束と今後の活動継続への思いを込めた励ましのメッセージ動画を送るなど、情報発信を続けた取組です。

この取組をつうじ、クルーズ船の寄港再開に向けた気運醸成や、港湾の振興及び利用促進に寄与することが評価されたものです。

例年であれば日本港湾協会の定時総会とあわせて表彰式が行われますが、新型コロナ感染拡大を受け、取り止めとなりました。このため、6月15日、北海道開発局から函館開発建設部長が遺愛女子高等学校に赴き、校長、教諭及び3年生に表彰状を贈りました。

受賞した生徒は、「クルーズ船の乗客の不安を取り除きたいと、先輩と動画を制作しました。企画賞をいただき誇らしく思います」、「クルーズ船の寄港再開があれば、いままで以上にもてなしたい」などと述べられました。



表彰状



伝達式後の記念撮影